

SPIGA REVOLUTION

新旧比較データ-から考察

Enjoy-Archery



現在

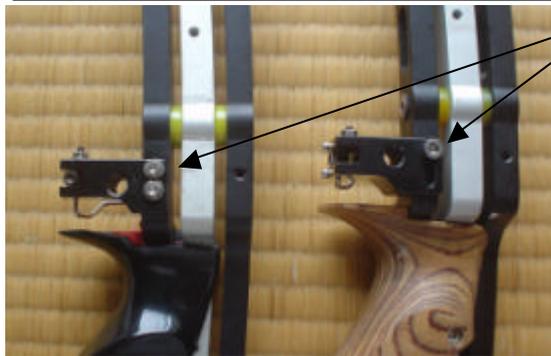
初期モデル

最近のハンドルと発売当初のハンドルと思われるものの比較をしてみるチャンスがあったので確認してみた。結果から見るとやはりというように機能や問題点を解決するための改造とコストを低下する企業努力の部分がでてくる。外観的にはほとんど同じに見えるが互換性を考えるとパーツでは合うものは少ない。

もちろん改善・改良はメーカーとしてはあたりまえなことであるが努力の跡が見える。

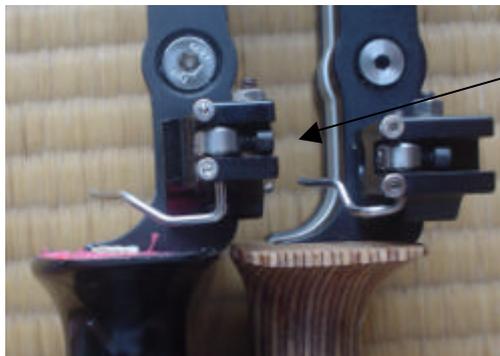
ちなみに現在形の方のグリップは当方が加工したもので製品形状ではありません。

上側 200504購入 下側200410購入と思われる。発売時期に近いもの。ただし、上側はベアボウ用であり下側は軽量タイプであるため、ウエイトの有無やハンドル前後アルミパーツの穴明きによる軽量化は比較部分は異なる。



変更点1 レストブロック固定ねじ

旧型はM4ねじ1本で短めであった。新型はM3ねじ2本で固定で長めになっている。振動で緩みを発生することへの対策と思われる。旧型もねじを長くしてねじを固定材で緩み止めをすると改善すると思われる。ただし新旧のハンドルは互換性がなくなるので旧型は2本にするにはねじ加工が必要になる。



変更点2 レストブロック

ここにプランジャーの固定ねじもあるため必ず使用しなければならないが、新旧を良く見ると、新型はシャフトに対して余裕が出るように削り込んで形状変更をしている。多分この改造は、パドックスが発生した場合のシャフトおよび羽根のレストブロックへの干渉を避けるために平常変更をしたものと思われる。

変更点3 ハンドル組み合わせ固定ねじ

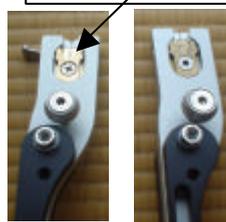
このハンドルの特徴の3枚構成のハンドルであるが、クッション材をはさんで組み合わせているねじが旧型はM5でカスタムの機械加工品で新型はM6の皿ねじに変更されている。このためこの部分も互換性がなくなっている。



変更点4 ハンドルの上下、リム固定ねじ

この部品の固定ねじが旧型は平Wと厚めのナットであるのに新型は平WとSWと薄めのナットで構成されている。この部分は緩みを改善するためと思われる。

リムのチルト機構部分のねじ
この部分もCDと思われるカスタムねじから汎用品の皿ねじに変更されている。



まとめ

基本的には互換性があるとはいえないくらい共通部品は少ないが、メーカーとしてはコストダウンやトラブルに対する改善・改良はあたりまえなことでは仕方ないと思われる。

新しい考え方の用具の発展を望む一人です。

参考データ-

		新		旧	
ハンドル	サイトブロック用穴	M4	貫通穴	M4	貫通穴
	クリッカ-用取り付け穴	M3		M3	
	クリッカ-プレート取り付け穴	M4		M4	
	プランジャー用穴	インチ		インチ	
	レストブロック取り付け穴	M3X2		M4X1	
				下穴の長さ 7 . 2 mm非貫通	
	グリップ固定穴	M4		M4	
	リム固定ねじ	M6?		M6?	
	リム調整ねじ	M6?汎用皿ねじ		M6?カスタム	
	ハンドル組み付けボルト	M6汎用皿ねじ		専用ねじ (ねじ部はM5)	

感心するのはアメリカの弓は何も考えずにねじ部分はインチを堂々と使用しますが、イタリアはISOでしょうかミリねじを多用していますから、日本でのねじの変更入手は簡単ですね。

現在旧タイプはレストブロックのねじM4を下穴限度いっぱい長さにカットして、封着剤で固定して緩みが発生するか確認予定、あわせてレストブロックの形状変更の検証もわかればいいなあ？

20050717現在 メーカーサイトからこの弓が紹介外れたのが残念です。進歩すればいいのにねえと思います。

今回のドイツのフィールドの世界大会にベアボウ部門で使用していた選手もありましたから.....

